

2013（平成25）年度

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会

総 会

平成25年11月14日（木）

学習院創立百周年記念会館

総 会 次 第

1 開会のことば

2 主催者あいさつ

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会

3 共催者あいさつ

学習院大学

4 来賓あいさつ

独立行政法人国立公文書館

5 議長選出

6 議事

- (1) 平成24年度事業報告について ……………[資料1] …… 1
- (2) 平成24年度決算報告について ……………[資料2] …… 4
- (3) 平成24年度監査報告について ……………[資料3] …… 8
- (4) 平成25年度事業計画について ……………[資料4] …… 9
- (5) 平成25年度予算について ……………[資料5] …… 11

7 報告

- (1) 第20期（平成25年度）役員等について ……………[資料6] …… 15
- (2) 会員数の現況について ……………[資料7] …… 16
- (3) 第40回全国大会開催地について ……………[資料8] …… 16
- (4) 地域別協議会活動報告について ……………[資料9] …… 17
- (5) 組織検討ワーキンググループ中間報告 ……………[資料10] …… 21

8 議長退任

9 閉会のことば

[資料 1]

平成24年度事業報告

会長事務局

項 目	内 容
総会・役員会の開催	1 総 会 平成24年11月8日(木) 広島県民文化センター 2 役員会 第1回 平成24年5月31日(木) ホテルレイクビュー水戸 第2回 平成25年2月21日(木) 京都府立総合資料館
会員に係る事務	1 会員入退会事務 2 会員名簿管理 3 会員会費徴収事務
その他	1 全国大会開催地及び次期役員体制の調整 2 組織・業務改善計画書・個別具体化計画の点検 3 組織検討ワーキンググループの設置 4 全史料協事務局の一部委託の検討 5 全史料協旅費規程案の検討

副会長事務局

項 目	内 容
国際交流 その他	1 国際会議・セミナー等について会員に広報 ・第1回ICA年次会合(2013年11月20日~24日、ベルギー・ブリュッセル)についての発表者募集通知と応募要項を、ホームページに1月31日掲載 2 国際会議への代表者派遣 ・ICA大会・ICA/SPA運営委員会・年次総会(平成24年8月20日~24日、オーストラリア・ブリスベン)に佐々木理事を派遣 3 国際団体への負担金送付 ・EASTICA会費(200USドル)を平成24年10月19日に指定口座に送金 4 その他の国際交流事務 ・SPAニュースレター2012年6月号をホームページに8月6日掲載 ・平成24年9月24日付け国立公文書館からのメールで、EASTICA理事会2013-2014年度任期のカテゴリーB会員代表理事として全史料協から理事就任ができないか打診があったが、10月3日に辞退する旨連絡した。

大会・研修委員会

項 目	内 容
委員会の開催	第1回 平成24年6月20日 茨城県東京事務所 第2回 平成24年9月28日 広島県民文化センター・鯉城会館・広島県立文書館 第3回 平成24年11月7日 広島県民文化センター・鯉城会館 第4回 平成25年2月14日 茨城県立歴史館
第38回全国(広島)大会	(1)日程 平成24年11月8日(木)・9日(金) 8日:視察・研修会・総会・交流会 9日:報告・委員会報告・大会テーマ研究会 8日~9日:機関会員刊行物展示・協賛企業展示, ポスターセッション (2)場所 広島県民文化センター・鯉城会館 広島県立文書館・広島市公文書館 (3)大会テーマ 「地域社会とともに歩むアーカイブズ - 今、なすべきこと - 」 (4)大会参加者数 268名
研 修 会	研修会(大会時)の開催
そ の 他	広報・広聴委員会への協力 会報「大会特集号」等

調査・研究委員会

項 目	内 容
委員会の開催	委員会会議 第1回 平成24年5月18日(金) 沖縄県公文書館 第2回 平成24年10月12日(金) 沖縄県公文書館 第3回 平成24年11月7日(水) 広島県民文化センター
調査研究事業	公文書館機能の自己点検・評価指標による調査と分析 昨年度の埼玉県・沖縄県に続き、佐賀県内自治体についてアンケート調査(ミニマムモデル)を実施。調査結果と先行2県との比較を公文書館機能普及セミナー in 佐賀で報告するとともに、全国大会ポスターセッションで公表した。
研修・研究会事業	(1)公文書館機能普及セミナー in 佐賀の開催 日 時 平成24年8月17日(金) 場 所 ホテルグランデはがくれ(佐賀市内) 参加者数 89人 (2)専門職問題セミナーの開催 日 時 平成25年2月22日(金) 場 所 ゆうあいセンター(岡山市北区) 参加者数 25人
報告	全史料協大会委員会報告 日 時 平成24年11月9日(金) 場 所 広島県民文化センター 報告者 調査・研究委員6名 報告タイトル「全史料協調査・研究委員会活動のこれまでとこれから」

項 目	内 容
ブログ運営	<p>会員との双方向コミュニケーション向上の一環として、調査・研究委員会ブログを開設（平成24年2月13日より）、セミナー関連ほか各種の情報を配信。</p> <p>平成25年5月6日現在，アクセス数17,170件，掲載記事101本。</p> <p>特に専門職問題については、セミナーでのワークショップの議論や参加記等の掲載を通じて、多くの会員のコミットメントを企画。</p>
震災臨時委員会へのオブザーバー派遣	<p>第1回委員会（平成24年6月8日）、第2回委員会（平成24年11月8日）、第3回委員会（平成25年2月15日）に新井副委員長をオブザーバーとして派遣。</p>

広報・広聴委員会

項 目	内 容
委員会の開催	<p>第1回 平成24年5月25日（金） 寒川文書館</p> <p>第2回 平成24年8月3日（金） 筑波大学東京キャンパス</p> <p>第3回 平成24年11月8日（木） 広島県民文化センター</p>
会誌と会報の発行	<p>1 会誌の編集と刊行（年1回） 『記録と史料』第23号（平成25年3月）</p> <p>2 会報の編集と刊行 第92号（平成24年9月） 第93号 全国大会特集（平成25年3月）</p>
ホームページの維持・管理	<p>インターネット・ホームページの維持・管理</p> <p>各委員会等から寄せられた情報をもとに、75回の更新を行った。また、レンタルサーバ契約やドメイン更新事務を行った。</p>
その他	<p>1 上記会議において、刊行物の著作権のあり方などについて検討を行った。</p> <p>2 全国大会および地方史研究協議会大会において会誌の販売を行った。</p>

[資料 2]

平成24年度決算報告

1 収入の部

(単位：円)

科 目	予算額	収入額	増減)	備 考
会 費	6,651,000	6,581,000	70,000	
機関会員	4,951,000	4,921,000	30,000	@40,000 × 47 / @35,000 × 55 / @31,000 × 36
個人会員	1,644,000	1,596,000	48,000	H24年度分 264(うち学生減額6) H23年度分 5 23年度預かり金を含み, 24年度預かり金を除く。
準会員	56,000	64,000	8,000	H24年度分 14 H23年度分 1 H22年度分 1
寄附金	500,000	450,000	50,000	
諸収入	120,000	125,470	5,470	
刊行物売上	100,000	104,730	4,810	会誌等
広告料	20,000	20,000	0	
雑収入	0	740	740	利息(会長324,副46,大会0,調査48,広報165,臨時157)
繰越金	3,399,334	3,399,334	0	
合 計	10,670,334	10,555,804	114,530	

2 支出の部

(単位：円)

科 目	予算額	流用後予算額	支出額	残 額	備 考
委員会費	6,202,400	6,202,400	4,880,803	1,323,832	
大会・研修委員会費	2,006,000	2,006,000	1,596,831	409,169	
運営費	907,000	907,000	676,620	230,380	
会議費	832,000	832,000	669,840	162,160	
消耗品費	1,000	1,000	0	1,000	
食糧費	1,000	1,000	0	1,000	
使用料及び賃借料	5,000	5,000	0	5,000	
旅費	825,000	825,000	669,840	155,160	
事務局事務費	75,000	75,000	6,780	68,220	
賃金	0	0	0	0	
消耗品費	5,000	5,000	0	5,000	
通信運搬費	10,000	10,000	6,780	3,220	
旅費	60,000	60,000	0	60,000	
事業費	1,099,000	1,099,000	920,211	178,789	
大会準備費	1,099,000	1,099,000	920,211	178,789	
報償費	160,000	150,000	77,720	72,280	
消耗品費	30,000	40,000	30,141	9,859	
食糧費	20,000	20,000	18,000	2,000	
印刷製本費	200,000	200,000	134,505	65,495	
通信運搬費	83,000	83,000	79,010	3,990	
備品費	0	0	0	0	
負担金	6,000	6,000	4,500	1,500	
交付金	600,000	600,000	576,335	23,665	
調査・研究委員会費	1,469,760	1,469,760	1,419,283	50,477	
運営費	601,760	702,262	702,262	0	

科 目		予算額	流用後予算額	支出額	残 額	備 考
(委員会費)	(調査・研究委員会費)	会議費	596,760	693,621	693,621	0
		旅費	591,760	691,554	691,554	0
		消耗品費	3,000	0	0	0
		食糧費	1,000	2,067	2,067	0
		使用料及び賃借料	1,000	0	0	0
		事務局事務費	5,000	8,641	8,641	0
		消耗品費	1,000	0	0	0
		通信運搬費	3,000	8,641	8,641	0
		印刷製本費	1,000	0	0	0
		事業費	868,000	767,498	717,021	50,477
	研究・研修費	665,000	584,981	584,981	0	
	旅費	600,000	517,814	517,814	0	
	報償費	20,000	0	0	0	
	消耗品費	3,000	1,360	1,360	0	
	通信運搬費	40,000	35,940	35,940	0	
	使用料及び賃借料	1,000	29,867	29,867	0	
	食糧費	1,000	0	0	0	
	普及活動費	202,000	182,517	132,040	50,477	
	印刷製本費	200,000	182,517	132,040	50,477	
	通信運搬費	1,000	0	0	0	
	旅費	1,000	0	0	0	
	調査費	1,000	0	0	0	
	広報・広聴委員会費	1,478,000	1,478,000	1,242,246	235,754	
	運営費	820,000	820,000	622,401	197,599	
	会議費	239,000	239,000	62,720	176,280	
	旅費	238,000	238,000	62,000	176,000	
	食糧費	0	0	0	0	
	通信運搬費	1,000	1,000	720	280	
	使用料及び賃借料	0	0	0	0	
	事務局事務費	581,000	581,000	559,681	21,319	
	賃金	530,000	530,000	529,200	800	
	消耗品費	8,000	8,000	5,261	2,739	
	印刷製本費	0	0	0	0	
通信運搬費	43,000	43,000	25,220	17,780		
事業費	658,000	658,000	619,845	38,155		
普及活動費	658,000	658,000	619,845	38,155		
印刷製本費	451,000	456,690	463,280	6,590		
通信運搬費	143,000	137,310	93,605	43,705		
報償費	10,000	10,000	9,800	200		
委託料	54,000	54,000	53,160	840		
東日本大震災臨時委員会費	1,248,640	1,248,640	622,443	626,197		
運営費	216,000	275,992	261,657	14,335		
会議費	209,000	266,412	256,027	10,385		
旅費	192,000	250,252	250,252	0		
消耗品費	2,000	2,000	0	2,000		

		科目	予算額	流用後予算額	支出額	残 額	備 考	
(委員(会費))	(東日本大震災臨時委員会費)	通信運搬費	5,000	4,160	3,675	485		
		使用料及び賃借料	10,000	10,000	2,100	7,900		
		事務局事務費	7,000	9,580	5,630	3,950		
			消耗品費	5,000	5,000	1,050	3,950	
			通信運搬費	2,000	4,580	4,580	0	
			事業費	1,032,640	972,648	360,786	611,862	
			現地実習開催費	0	0	0	0	
			旅費	0	0	0	0	
			保険料	0	0	0	0	
			被災公文書等救済事業費	569,640	509,648	276,711	232,937	
			旅費	500,000	400,048	216,150	183,898	
			通信運搬費	9,000	7,260	3,990	3,270	
			消耗品費	30,640	30,640	0	30,640	
			保険料	10,000	10,000	0	10,000	
			使用料及び賃借料	10,000	51,700	51,700	0	
			燃料費	10,000	10,000	4,871	5,129	
			要望活動費	10,000	10,000	0	10,000	
			旅費	10,000	10,000	0	10,000	
			被災実態調査費	453,000	453,000	84,075	368,925	
			賃金	200,000	85,000	0	0	
			旅費	150,000	150,000	81,860	68,140	
			印刷製本費	85,000	200,000	0	200,000	
			通信運搬費	6,000	6,000	2,215	3,785	
			消耗品費	2,000	2,000	0	2,000	
			食糧費	10,000	10,000	0	10,000	
			会長事務局費	2,651,000	2,651,000	2,109,387	541,613	
			事業運営費	2,651,000	2,651,000	2,109,387	541,613	
			運営費	2,651,000	2,651,000	2,109,387	541,613	
			会議費	1,321,000	1,321,000	1,059,535	261,465	
			旅費	1,250,000	1,250,000	1,036,550	213,450	
			消耗品費	4,000	4,000	0	4,000	
			食糧費	0	0	0	0	
			通信運搬費	35,000	35,000	18,485	16,515	
	使用料及び賃借料	20,000	20,000	0	20,000			
	負担金	12,000	12,000	4,500	7,500			
	事務局事務費	1,330,000	1,330,000	1,049,852	280,148			
	賃金	700,000	700,000	580,320	119,680			
	旅費	120,000	120,000	117,360	2,640			
	消耗品費	30,000	4,000	0	4,000			
	印刷製本費	150,000	150,000	96,495	53,505			
	通信運搬費	120,000	146,000	145,685	315			
	使用料及び賃借料	210,000	210,000	109,992	100,008			
	副会長事務局費	589,000	589,000	393,607	195,393			
	事業運営費	589,000	589,000	393,607	195,393			
	運営費	219,000	219,000	42,341	176,659			

科 目		予算額	流用後予算額	支出額	残 額	備 考	
(副会長事務局費)	(事業運営費)	事務局事務費	219,000	219,000	42,341	176,659	
		旅費	207,000	207,000	37,580	169,420	
		大会参加費	0	0	0	0	
		通信運搬費	7,000	8,000	4,761	3,239	
		消耗品費	5,000	4,000	0	4,000	
		事業費	370,000	370,000	351,266	18,734	
		団体等関係費	370,000	370,000	351,266	18,734	
		旅費	207,000	215,000	214,501	499	
		通信運搬費	20,000	20,000	14,840	5,160	
		負担金	143,000	135,000	121,925	13,075	
		支援金	0	0	0	0	
		特別交付金	0	0	0	0	
		予備費	1,227,934	1,227,934	227,455	1,000,479	
予備費	1,227,934	1,227,934	227,455	1,000,479			
合 計	10,670,334	10,670,334	7,611,252	3,059,082			

3 収支決算

(単位：円)

収支額	総収入額	総支出額	残 額	備 考
	10,555,804	7,611,252	2,944,552	次年度へ繰越

4 預かり金

(単位：円)

平成25年度会費	個人会員	5名分	30,000
----------	------	-----	--------

5 通帳残高

(単位：円)

区 分	残 額	備 考
通帳残高計	2,613,903	
収支決算額と通帳残高との差額	330,649	平成25年度会費預かり金 + 広報・広聴委員会

[参考] 郵便切手

(単位：円)


区 分	残 額	備 考
郵便切手残高	大会・研修委員会	490
	調査・研究委員会	441
	広報・広聴委員会	40
	東日本大震災臨時委員会	0
	会長事務局	0
	副会長事務局	2,021
郵便切手 残高計	2,992	次年度へ繰越

[資料 3]

監 査 報 告 書

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会会則第 10 条第 4 項の規定に基づき、事業報告の内容及び会計帳簿など会計書類を審査した結果、平成 24 年度の会務及び会計は適正に執行されていることを認めます。

平成 25 年 6 月 7 日

監 事 中 川 利 國 

[資料 4]

平成25年度事業計画

会長事務局

項 目	内 容
総会・役員会の開催	1 総 会 平成25年11月14日(木) 学習院大学・目白キャンパス 2 役員会 第1回 平成25年6月7日(金)~8日(土) 広島県広島市 第2回 平成26年2月20日(木)~21日(金) 広島県広島市
会員に係る事務 (事務支局)	1 会員入退会事務 2 会員名簿管理 3 会員名簿の編集・発行 4 会員会費徴収事務

副会長事務局

項 目	内 容
国際交流	1 国際会議・セミナー等の会員への広報 ・ EASTICA総会及びセミナー(2013年8月下旬~9月上旬、中国・成都)のお知らせ ・ ICA年次会合(2013年11月20日~24日、ベルギー・ブリュッセル)開催のお知らせ 2 国際団体への負担金送付 ・ ICA会費(350ユーロ) ・ EASTICA会費(200USドル) 3 その他の国際交流関係事務 ・ SPAニュースレターを翻訳して全史料協ホームページに掲載

大会・研修委員会

項 目	内 容
委員会の開催	大会・研修委員会会議 第1回 平成25年5月14日(火) 第2回 平成25年7月 第3回 平成26年2月
全国大会の企画・準備・開催(第39回大会)	全国大会の企画・準備・開催 1 開催日:平成25年11月14日(木)~15日(金) 2 会 場:学習院大学 創立百周年記念会館 3 大会日程・テーマ・講師報告者等の検討 4 大会開催要項・大会誌の作成 5 大会の開催その他 広報・広聴委員会への協力(会報「大会特集号」等)

調査・研究委員会

項 目	内 容
委員会の開催	<p>委員会会議（年間2回開催予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 平成25年5月20日 北海道立文書館 ・第2回 平成25年11月13日 東京都
委員会の事業	<p>(1) 公文書館機能普及セミナーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：8月26日（月） ・開催地：札幌市 ・内 容：公文書館機能普及のため、公文書館に関する法制度や機能整備事例に関する講義や報告を行う。 ・その他：セミナー資料を作成・頒布する。 <p>(2) 公文書館の業務に関する調査研究</p> <p>① 公文書館機能普及に関する調査研究 「公文書館機能整備のための手引き」（仮称）作成 公文書館機能未整備の自治体が、できるところから取り入れていくために参考となる、先行事例を多く掲載した総合的な案内書を作成する。作成期間は来年度までの2ヵ年とし、今年度は構成の検討と事例の集積を行う。体裁は電子媒体を予定。</p> <p>② 専門職問題に関する調査研究 既存館で専門的業務を行う職員の雇用形態や処遇、研修環境などを実態調査し、専門職を含む職員動向の把握に努める。</p> <p>(3) 東日本大震災被災地関連の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸前高田市の状況把握につとめ、調査・研究委員会ブログで情報発信する。 ・次年度の「公文書館機能普及セミナー in 岩手」開催（予定）に向けた調整

広報・広聴委員会

項 目	内 容
委員会の開催	<p>第1回 平成25年5月22日 寒川文書館</p> <p>第2回 平成25年8月9日 藤沢市文書館</p> <p>第3回 平成25年11月15日 学習院創立百周年記念会館</p>
会誌と会報の発行	<p>1 会誌の編集と発行 『記録と史料』第24号（平成26年3月発行予定）</p> <p>2 会報の編集と発行 『会報』第94号（平成25年9月発行予定） 『会報』第95号（大会特集号・平成26年3月発行予定）</p>
ホームページの維持管理	ホームページの維持・管理・更新
その他	<p>1 刊行物の販売促進</p> <p>2 刊行物販売方法や著作権のあり方について検討</p>

[資料 5]

平成25年度予算

1 収入の部

(単位：円)

科 目	平成24年度	平成25年度	比較増減()	備 考
会費	6,651,000	6,504,000	147,000	
機関会員	4,951,000	4,776,000	175,000	134 機関
個人会員	1,700,000	1,728,000	28,000	291 名
寄附金収入	500,000	0	500,000	
諸収入	120,000	440,000	320,000	
刊行物売上	100,000	100,000	0	会誌等
広告料	20,000	90,000	70,000	大会協賛金を含む
大会配布資料代, 参加費	0	250,000	250,000	大会配布資料代 (@1,000 × 200人), 非会員参加費 (@1,000 × 50人)
繰越金	3,399,334	2,944,552	454,782	
合 計	10,670,334	9,888,552	781,782	

2 支出の部

(単位：円)

科 目	平成24年度	平成25年度	比較増減()	備 考
委員会費	6,202,400	4,000,000	2,202,400	
大会・研修委員会費	2,006,000	1,700,000	306,000	
運営費	907,000	900,000	7,000	
会議費	832,000	370,000	462,000	
消耗品費	1,000	0	1,000	
食糧費	1,000	0	1,000	
使用料及び賃借料	5,000	0	5,000	
旅費	825,000	370,000	455,000	委員数 5 名 委員会 3 回 + 大会運営 1 回
事務局事務費	75,000	530,000	455,000	
賃金	0	35,000	35,000	事務局出張日当 (1日: 大会第一日目)
消耗品費	5,000	47,000	42,000	事務局コピー代等消耗品, 委員会専用封筒
通信運搬費	10,000	20,000	10,000	事務局郵送料, FAX代, 委員旅費振込手数料
旅費	60,000	5,000	55,000	事務局出張旅費 (1日: 大会第一日目)
委託費	0	423,000	423,000	事務局委託料 (会計用務及び庶務用務の一部)
事業費	1,099,000	800,000	299,000	
大会運営費	1,099,000	800,000	299,000	
賃金	0	108,000	108,000	大会前日・当日アルバイト: @4,500円 × 0.5日 × 24人
報償費	160,000	120,000	40,000	講師等旅費補助, 交流会参加費: @20,000円 × 6人
消耗品費	30,000	100,000	70,000	大会必携・大会要項等紙代, 案内看板作成, その他大会関係消耗品
食糧費	20,000	20,000	0	講師等昼食: @650円 × 30人, 飲料水代
印刷製本費	200,000	290,000	90,000	大会必携50部, 大会要項(12頁)・大会関係チラシ(2頁)各700部, 宛名ラベル等印刷, 大会誌500部印刷
通信運搬費	83,000	110,000	27,000	大会要項等発送費, 講師等謝礼・アルバイト賃金振込手数料
使用料及び賃借料	0	52,000	52,000	大会使用備品・機器等賃借料
備品費	0	0	0	
負担金	6,000	0	6,000	
交付金	600,000	0	600,000	今年度廃止

科 目		平成24年度	平成25年度	比較増減)	備 考
(委員会費)	調査・研究委員会費	1,469,760	1,000,000	469,760	
	運営費	601,760	609,000	7,240	
	会議費	596,760	600,000	3,240	
	旅費	591,760	594,000	2,240	
	消耗品費	3,000	3,000	0	
	食糧費	1,000	2,000	1,000	
	使用料および貸借料	1,000	1,000	0	
	事務局事務費	5,000	9,000	4,000	
	消耗品費	1,000	5,000	4,000	
	通信運搬費	3,000	3,000	0	
	印刷製本費	1,000	1,000	0	
	事業費	868,000	391,000	477,000	
	研究・研修費	665,000	239,000	426,000	
	旅費	600,000	194,000	406,000	・公文書館機能普及セミナー（札幌市）
	報償費	20,000	20,000	0	
	消耗品費	3,000	3,000	0	
	通信運搬費	40,000	1,000	39,000	
	使用料および貸借料	1,000	20,000	19,000	
	食糧費	1,000	1,000	0	
	普及活動費	202,000	151,000	51,000	
	印刷製本費	200,000	100,000	100,000	
	通信運搬費	1,000	50,000	49,000	
	旅費	1,000	1,000	0	
	調査費	1,000	1,000	0	
	広報・広聴委員会費	1,478,000	1,300,000	178,000	
	運営費	820,000	629,000	191,000	
	会議費	239,000	63,000	176,000	
	旅費	238,000	62,000	176,000	
	食糧費	0	0	0	
	通信運搬費	1,000	1,000	0	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	事務局事務費	581,000	566,000	15,000	
賃金	530,000	530,000	0	@6,300 × (4日 + 3日) × 12か月	
消耗品費	8,000	6,000	2,000		
印刷製本費	0	0	0		
通信運搬費	43,000	30,000	13,000	電話代、大会時等宅配便運賃	
事業費	658,000	671,000	13,000		
普及活動費	658,000	671,000	13,000		
印刷製本費	451,000	464,000	13,000	会報94号、会報95号、会誌24号印刷経費	
通信運搬費	143,000	143,000	0	刊行物送料	
報償費	10,000	10,000	0	英訳監修謝礼	
委託料	54,000	54,000	0	サーバ賃借料、テープ筆耕委託料等	
東日本大震災臨時委員会費	1,248,640	0	1,248,640		
運営費	216,000	0	216,000		
会議費	209,000	0	209,000		

科 目		平成24年度	平成25年度	比較増減 ()	備 考
(委員会費) (東日本大震災臨時委員会費) (運営費)	旅費	192,000	0	192,000	
	消耗品費	2,000	0	2,000	
	通信運搬費	5,000	0	5,000	
	使用料及び賃借料	10,000	0	10,000	
	事務局事務費	7,000	0	7,000	
	消耗品費	5,000	0	5,000	
	通信運搬費	2,000	0	2,000	
	事業費	1,032,640	0	1,032,640	
	現地実習開催費	0	0	0	
	旅費	0	0	0	
	通信運搬費	0	0	0	
	保険料	0	0	0	
	被災公文書等救済事業費	569,640	0	569,640	
	旅費	500,000	0	500,000	
	通信運搬費	9,000	0	9,000	
	消耗品費	30,640	0	30,640	
	保険料	10,000	0	10,000	
	使用料及び賃借料	10,000	0	10,000	
	燃料費	10,000	0	10,000	
	要望活動費	10,000	0	10,000	
	旅費	10,000	0	10,000	
	被災実態調査費	453,000	0	453,000	
	賃金	200,000	0	200,000	
	旅費	150,000	0	150,000	
	印刷製本費	85,000	0	85,000	
	通信運搬費	6,000	0	6,000	
	消耗品費	2,000	0	2,000	
	食糧費	10,000	0	10,000	
	会長事務局費	2,651,000	2,600,000	51,000	
	事業運営費	2,651,000	2,600,000	51,000	
運営費	2,651,000	2,600,000	51,000		
会議費	1,321,000	1,537,000	216,000		
旅費	1,250,000	1,503,000	253,000	組織検討WG旅費を含む	
消耗品費	4,000	4,000	0		
食糧費	0	0	0		
通信運搬費	35,000	26,000	9,000		
使用料及び賃借料	20,000	0	20,000		
負担金	12,000	4,000	8,000		
事務局事務費	1,330,000	1,063,000	267,000		
賃金	700,000	0	700,000	事務局補助職員	
旅費	120,000	100,000	20,000		
消耗品費	30,000	11,000	19,000		
印刷製本費	150,000	34,000	116,000	総会資料・会員名簿	
通信運搬費	120,000	150,000	30,000		
委託費	0	648,000	648,000	事務局事務の委託費	

科 目		平成24年度	平成25年度	比較増減()	備 考
	使用料及び賃借料	210,000	120,000	90,000	
副会長事務局費		589,000	500,000	89,000	
事業運営費		589,000	500,000	89,000	
運営費		219,000	390,000	171,000	
事務局事務費		219,000	390,000	171,000	
旅費		207,000	207,000	0	
大会参加費		0	6,000	6,000	
通信運搬費		7,000	27,000	20,000	書類送付費等
役務費		0	120,000	120,000	ICA、EASTICAからの英文メール和訳費等
消耗品費		5,000	30,000	25,000	文房具費等
事業費		370,000	110,000	260,000	
団体等関係費		370,000	110,000	260,000	
旅費		207,000	0	207,000	
通信運搬費		20,000	20,000	0	海外送金手数料(ICA、EASTICA)
負担金		143,000	90,000	53,000	ICA、EASTICA 2013年分会費
支援金		0	0	0	
特別交付金		0	0	0	
予備費		1,227,934	2,788,552	1,560,618	
予備費		1,227,934	2,788,552	1,560,618	
合 計		10,670,334	9,888,552	781,782	

[資料 6]

第20期（平成25年度）役員等

職名	氏名	所属	区分	備考
会長	八津川 和 義	広島県立文書館	機関	
副会長	小 松 芳 郎	松本市文書館	機関	
	佐 藤 勝 巳	戸田市立郷土博物館	個人	
理事	白 井 哲 哉	筑波大学	個人	大会・研修委員長
	金 谷 武 雄	北海道立文書館	機関	調査・研究委員長
	小 島 輝 雄	寒川文書館	機関	広報・広聴委員長
	宮 沢 修	埼玉県立文書館	機関	関東部会長
	結 城 孝 典	徳島県立文書館	機関	近畿部会長
	早 川 和 宏	桐蔭法科大学院（桐蔭横浜大学大学院法務研究科）	個人	
	和 田 義 久	枚方市教育委員会文化財課市史資料室	個人	
監事	中 川 利 國	広島市公文書館	機関	

参 与	小 川 千代子	国際資料研究所	個人	
-----	---------	---------	----	--

委員会の構成

大会・研修委員会

役 職	氏 名	機 関 名
委員長	白 井 哲 哉	筑波大学
委 員	福 島 幸 宏	京都府立総合資料館
委 員	森 本 祥 子	東京大学総合研究博物館
委 員	西 向 宏 介	広島県立文書館
委 員	渡 部 恵 一	八王子市史編さん室

調査・研究委員会

役 職	氏 名	機 関 名
委員長	金 谷 武 雄	北海道立文書館
委 員	小 高 哲 茂	群馬県立文書館
委 員	呉 屋 美奈子	恩納村教育委員会 社会教育課 恩納村文化情報センター準備室

委員	小川正人	北海道立アイヌ民族文化研究センター
委員	富田健司	芳賀町総合情報館
事務局	鶴原美恵子	北海道立文書館
事務局	山田正	北海道立文書館

広報・広聴委員会

役職	氏名	機関名
委員長	小島輝雄	寒川文書館
委員	相京眞澄	千葉県文書館
委員	櫛原直樹	藤沢市文書館
委員	伊藤康	鳥取県立公文書館
委員	五島敏芳	京都大学総合博物館
委員	谷岡能史	阪神淡路大震災記念人と防災未来センター
委員(事務局)	高木秀彰	寒川文書館

[資料 7]

会員数の現況

項目	H24. 9. 1 現在	H25. 9. 1 現在	備考
機関会員	138	134	入会： 4 退会： 8
個人会員	288	290	入会： 16 退会： 14
合計	426	424	

[資料 8]

第40回全国大会開催地

- ① 開催時期 平成26年11月13日(木)・14日(金)【予定】
- ② 開催場所 福岡県福岡市

[資料 9]

地域別協議会活動報告

関東部会報告（平成24年9月～平成25年8月）

1 第30回総会の開催

- (1) 日 時 平成25年6月12日（水）午後1時30分から2時30分まで
- (2) 場 所 埼玉会館
- (3) 内 容 平成24年度事業・決算報告の承認、平成25年度事業計画・予算案の承認、平成25年度役員等の承認

2 平成25年度役員会の開催

- (1) 日 時 平成25年6月12日（水）午前10時から11時まで
- (2) 場 所 埼玉会館
- (3) 内 容 平成24年度事業・決算報告の審議、平成25年度事業計画・予算案の審議、平成25年度役員等の審議

3 運営委員会の開催

（平成24年度）

第2回 平成24年12月7日（金） 東京都公文書館

第3回 平成25年3月14日（木） 戸田市立図書館・郷土博物館

（平成25年度）

第1回 平成25年5月15日（水） 埼玉県立文書館

4 会報の編集・発行

会報『アーキビスト』第78号（平成24年10月発行）

第79号（平成25年3月発行）

5 定例研究会

回数	開催日時	テーマ・報告者（所属）・会場
第268回	9月14日（金） 13:30～16:45	テーマ 『関東地域における東日本大震災の災害対応とその課題～公文書レスキュー活動と地域資料の保全体制について～』 報告1 『神奈川県立公文書館の陸前高田市役所公文書レスキュー活動について』 遠藤 茂氏(神奈川県立公文書館行政資料グループ) 木本洋祐氏(同 被災公文書レスキュー隊リーダー) 報告2 『茨城県内における地域資料のレスキュー活動と自治体』 高村恵美氏(常陸大宮市歴史民俗資料館学芸員) 場所 神奈川県立公文書館（神奈川県横浜市） 参加人数 31名

第269回	12月7日(金) 13:30~17:00	<p>テーマ 『全史料協全国大会 in 広島を振り返って』</p> <p>報告1 『全史料協広島大会に参加して』 川上 努氏(静岡県経営管理部総務局法務文書課)</p> <p>報告2 『全史料協広島大会の企画にあたって』 富田 任氏(茨城県立歴史館史料学芸部行政資料課)</p> <p>報告3 『既存施設の転用による公文書館の管理運営 ~東京都公文書館を事例として~』 佐藤佳子氏(東京都公文書館資料編さん係)</p> <p>場所 東京都公文書館(東京都世田谷区)</p> <p>参加人数 37名</p>
第270回	2月18日(月) 13:30~17:00	<p>テーマ 『国立公文書館・アジア歴史資料センターにおけるデジタルアーカイブの現在と未来』</p> <p>報告1 『アジア歴史資料センターにおけるデジタル資料公開事業について』 平野宗明氏(研究員)</p> <p>報告2 『国立公文書館デジタルアーカイブについて』 八日市谷哲生氏(電子情報第一係長)</p> <p>施設見学:国立公文書館業務紹介</p> <p>場所 国立公文書館(東京都千代田区)</p> <p>参加人数 40名</p>
第271回	6月12日(水) 15:00~16:30	<p>テーマ 総会記念講演会</p> <p>演 題 『国と地方の公文書管理 ~公務員の公文書管理意識を改善するために~』 講師 片山善博氏(慶應義塾大学教授)</p> <p>場所 埼玉会館</p> <p>参加人数 65名</p>
第272回	7月26日(金) 14:00~17:00	<p>テーマ 「地域歴史研究とアーカイブズ 飯田市歴史研究所を事例として」</p> <p>報告1 「歴史研究所の概要」 北原康彦氏(副所長)</p> <p>報告2 「地域との連携について」北村安裕氏(研究員)</p> <p>報告3 「歴史研究所における歴史資料保存活動」 安岡健一氏(研究員)</p> <p>報告4 「飯田下伊那の歴史研究と史料保存の今」 前澤 健氏(客員研究員)</p> <p>場所 飯田市歴史研究所(長野県飯田市)</p> <p>参加人数 12名</p>

6 ホームページの運営

全史料協関東部会のホームページについて随時データ更新等を行った。

新たにドメインを取得し、独自サーバーの運用を開始した。旧ホームページは閉鎖した。

新ホームページURL <http://www.jsai-kanto.jp/>

7 会員数(平成25年8月31日現在)

機関会員:50機関 個人会員:116名 計:166

近畿部会報告（平成24年9月～平成25年8月）

1 総会の開催

- (1) 日 時 平成25年6月21日（金）
- (2) 場 所 徳島県立文書館 2階 講座室
- (3) 内 容 平成24年度事業・決算・監査報告、第11期（平成25年度）役員の承認、平成25年度事業計画・予算を審議・承認

2 役員会の開催

- (1) 日 時 平成25年4月27日（金）
- (2) 場 所 京都府立総合資料館 2階 会議室
- (3) 内 容 第11期（平成25年度）役員の選出、平成24年度事業・決算・監査報告、平成25年度運営委員の承認、平成25年度事業計画(案)・予算(案)を審議

3 運営委員会の開催

- (1) 平成24年度第2回（通算57回）運営委員会
 - ア 日 時 平成25年3月14日（木）
 - イ 場 所 京都府立総合資料館 2階 会議室
 - ウ 議 題 平成25年度の例会企画案および運営委員会の体制について
- (2) 平成25年度第1回（通算58回）運営委員会
 - ア 日 時 平成25年4月26日（金）
 - イ 場 所 京都府立総合資料館 2階 会議室
 - ウ 議 題 平成25年度の例会企画案および運営委員会の体制について審議

4 会報等の発行

- (1) 会報『Network』の発行（総会・例会・研究会の報告、例会・研究会の参加記等を掲載）
No.47 平成24年10月、No.48 平成25年3月
- (2) 「Monthly News」の発行（総会・例会の案内、前回例会の速報等を掲載）
No.105 平成24年9月、No.106 平成24年11月、No.107 平成24年12月
No.108 平成25年5月、No.109 平成25年6月、No.110 平成25年8月

5 例会の開催

回数	開催日時	テーマ・報告者（所属）・会場
第117回	9月20日（木）	テーマ 「和歌山台風水害における地域資料救出の取り組み」 講 師 藤 隆宏氏（歴史資料保存ネット・わかやま会員） 場 所 大阪市立生涯学習センター・弁天町市民学習センター
第118回	10月16日（火）	テーマ 「歴史的文書を考える」震災の記録から学ぶ～関東大震災の救援活動から～ 講 師 北原系子氏（立命館大学歴史都市防災研究センター教授） 場 所 滋賀県庁7階大会議室

第119回	1月18日(金)	テーマ 「古文書調査・公開のあゆみと今後 - 貝塚市郷土史料室開室25年 - 」 講師 曾我友良氏(貝塚市教育委員会郷土資料室) 場所 貝塚市立図書館2階視聴覚室
第120回	6月21日(金)	テーマ 「記録を生かすためのしくみづくり - アメリカ議会による政府の記録管理を中心に - 」 講師 岡本哲和氏(関西大学政策創造学部教授) 場所 徳島県立文書館 2階講座室
第121回	7月19日(金)	テーマ 「大阪人権博物館の現状と今後の課題」 講師 吉村智博氏(大阪人権博物館 学芸員) 場所 大阪人権博物館

6 テーマ研究会の開催

(1) 近世古文書研究会 世話人：島津良子

回数	開催日時	テーマ・報告者(所属)・会場
第96回	12月8日(土)	テーマ 「総合調査におけるデータ管理 - 宇治田原町茶史編纂事業における調査事例について - 」 講師 穴戸留美氏(奈良女子大学) 場所 奈良県婦人会館
第97回	1月18日(金)	第119回例会と同じ
第98回	3月2日(土)	テーマ 偽文書「椿井文書」について 講師 馬部隆弘氏(長岡京市教育委員会) 場所 奈良県婦人会館

(2) 公文書研究会 世話人：和田義久

回数	開催日時	テーマ・報告者(所属)・会場
第44回	9月20日(木)	第117回例会と同じ

7 会員数(平成25年9月2日現在)

機関会員：20機関 個人会員：70名 計：90 (通信会員9)

[資料10]

組織検討ワーキンググループ中間報告

はじめに

平成24年度の総会において、役員会のもとに組織検討ワーキンググループを置くことが承認された。ワーキンググループに与えられた仕事は、平成27年度からの全史料協について、会としての理念・目標を示し、会の組織・運営・活動についての方向性を示すことであった。周知のとおり、事務局では、そのための参照とすべく、本年2月から会員を対象としたアンケートを行い、去る7月には、その結果をウェブを通して会員に公表したところである。

アンケート回答には、各位の真摯な意見が記され、同時に、全史料協という会の性格についての認識も、おのずと示されており、興味深いものであったと考える。ただ、全史料協の今後の目標や運営体制について考えようとしたとき、多様な意見のすべてを平等に生かすことは不可能であり、またアンケート結果の単純総和がそのまま方針となりえないのも明らかであった。

そのため、ワーキンググループでは、本年8月に会合を持ち、アンケート結果を適宜参照しながら、新たな方針策定のための論点整理を試みた。

ここでは、アンケート結果を踏まえつつワーキンググループが行った議論を整理し、中間報告としたい。

1 今後の予定

まず初めに、新方針策定にかかる今後の予定であるが、下記のようなスケジュールで行いたいと考えている（WGはワーキンググループのことである）。

- 25年
 - 11月14日 総会で中間報告（総会后ウェブサイトアップ）
 - 11月下旬 ウェブサイトで中間報告に対する意見を募集
 - 12月～ 第一次案を作成
- 26年
 - 1月 WGの会合で第一次案を検討
 - 2月 本年度第2回役員会で第一次案を報告（了承後、ウェブサイトアップ）
 - 3月 第一次案に対する意見募集

- 5月 意見にもとづき第二次案作成，WGの会合で第二次案を検討
- 6月 26年度第1回役員会で第二次案を報告（了承後，ウェブサイトアップ）
- 7，8月 第二次案に対する意見募集
- 9月 意見にもとづき第三次案作成，WGの会合で検討
- 10月 第三次案を最終案にすることについて役員の了承を得る
- 11月 総会で提案・決定
- 27年
 - 2月 役員会
 - 3月31日 WG設置期間終了
 - 4月 新体制発足

2 論点整理の概要

- ……【要旨】……
- 本文では、細かな説明がなされているので、以下に、項目ごとの簡潔な要点を示す。
- 会の理念と性格
 - 理念：「全史料協は、公文書館等の資料保存利用機関は、民主主義や地域社会を支える礎である、という理念を広めるためにある」という考えを維持する。
 - 性格：全史料協は、アーカイブズ機関の連絡協議会であることを基本とし、実務的な領域を活動の軸とする。
 - 会の目標
 - 従来の目標は、基本線として維持する。ただ、地域資料保全や各地での機関連携の支援などを、個別課題として加筆することも検討する。
 - 外部状況
 - 全史料協に関わる外部状況として、留意すべき点は、①公文書管理法の成立などアーカイブズについて進展が見られたこと、②県単位での地域史料協の活動や県立機関の講習会などが各地で見られること、③東日本大震災後、記録資料保全についての関心が強まったこと、等である。
 - 組織・運営体制
 - 組織：現在の組織は変更しない。ただし、地域部会とその活動の位置づけは、なお、検討を要する。
 - 運営：事務局は、引き受け可能な機関が交互に担当しあう。委員会については、事務局と委員の業務分担を見直す。
 - 活動内容
 - 情報交換、ノウハウの共有、機関や実務者の交流などが、会の活動の効果として期待されており、大会・セミナー・ウェブサイトなど、従来の活動はおおむね継続する。
- ……

会の理念と性格

理念

全史料協の理念については、やはり、

公文書館等の資料保存利用機関は、民主主義や地域社会を支える礎であることをアピールする（広める）組織としての全史料協

という理解が前提としてあり、その上で、会が会として組織されている理由は、「アーカイブズ（記録資料）に関わる、一機関、一個人では解決できない諸問題に対し、協力して対処するため」であると考え。

ともすれば、全史料協を解体するという声も（ひとつの極論として）聞こえてくることもあるが、会として存続する理念は、依然として変わるところはないと理解すべきである。

性格

会の性格については、アンケート回答のいくつかが的確に述べているように、「アーカイブズ機関の連絡協議会であること」をその基本的性格とすべきであると考え。

もちろん、全史料協は、機関会員と個人会員から成り立っており、この二つの位置づけについては、これまでも議論のあったところであるが、（個人会員の助力を得つつも）やはり、機関の連絡協議会であることを、会の基本的性格として自己認識すべきである。

なお、付言すれば、個人会員には様々な立場の人がいるが、その主たるイメージは、アーカイブズやその関連領域における実務家（あるいはその経験を積んだ人）というものである。アンケートの回答に、会の性格について「実務者の団体」とか「公文書館や文書主管課という現場を背負った団体」という表現があったのは、このような個人会員観を示している。ただ、今後、実態としての個人会員のありようの推移によっては、会の中での位置づけも変化することも考えられる。

実務と運動

会の基本的性格を上記のように理解した上で、確認したいのは、アーカイブズに関する諸問題の中で、全史料協がよって立つのは、実務的な領域であるという自己認識である。アンケート回答の中に、「実務」という言葉を明示したものがいくつか見られたのは、この認識の表れであろう。なお、回答には、「実務的ではあるが、学術的な要素も含む組織を残していただきたい」とするものもあったが、もちろん、この回答も、会としての軸が実務領域にあることを前提にした上での意見であろう。

また一方で、全史料協には、運動団体としての側面も

あり、アンケートの回答の中にも、「運動」という言葉を全史料協の活動として肯定的にとらえるものも、いくつか見られた。現在は、狭義の「運動」的側面は比較的背景に退いているが、アーカイブズについての考えやメッセージを各地に広めようとする（伝えようとする）全史料協の基本姿勢は、今後とも変わらずにいることが基本である。

会の目標

アンケートに寄せられた意見は様々であるが、掲げてきた目標が状況と齟齬を来しているとは考えられないというのが基本的な認識である。新たな目標として提案されているものもいくつかあるが、従来目標を実現するための手法のひとつも捉え得るので、基本線が揺らぐことはないと思う。

ただ、これまでの基本線は維持しつつ、状況に応じて具体的な加筆も必要という考えも一理ある。

たとえば、その加筆すべきひとつとして考えられるのは、地域資料の保全に関する問題である。これは特に、震災後、関係者の間で関心が高まったのではないと思われる。

これと部分的に関連するかとも思われるが、アンケートには、これまで公文書に偏重しすぎているという評価もあった。ただ、全史料協には、狭義の公文書以外に対する関心も継続して見られるのも事実なので、「偏重」というのは、実際の活動領域における程度の問題を指摘したものと思われる。ただ、震災のような広域災害が、広義の記録資料への関心を高めているのは、やはり間違いないだろう。

具体的加筆のもうひとつは、各地域での（場合によっては県域を越えた）機関どうしの連携を支援することである。

というのも、地域で県域を越えた集まりの場 課題を持ち寄り、情報を交換したりする場 は、（現在の関東部会や近畿部会のような、組織化された形ではなくとも）今後望まれていくものと思うからである。

特に、市町村レベルでのアーカイブズの設置（あるいは、公文書館機能の実現）が、今後、徐々に進んでいったとき、その業務の質を日常的に維持し、高める上で、近隣の同種機関との交流は不可欠になっていくと思われる。アンケート回答に、「新設館では交流の場を求めている」という指摘があったのも、これを裏付けている。

必ずしも全史料協が音頭をとって、そのような地域的組織を作るとまではいかなくとも、各地でセミナーを開くなどの（これまでのような）活動を継続することは、そ

それぞれの地域での交流を支援することになるであろう。

なお、会としての目標の考え方には、共通課題と、個別の課題を分けることも必要であり、上記のような具体的加筆は、個別課題のひとつとして位置付けることも可能であろう。

外部状況

会を取り巻く外部状況としてまず指摘しておくべきは、やはり、公文書管理法の成立、国立公文書館の活動の拡大、日本アーカイブズ学会の発足など、アーカイブズを巡る情勢に進展が見られたことである。

全国各地に公文書館が少しずつ増え、また、館という形はとらなくとも、公文書館機能をもった施策をとる自治体が現れ始めているのも、これらの状況（特に公文書管理法の成立）と関係がある。

これに関連して特に注目しておきたい状況は、いくつかの地域で、県単位での地域史料協の着実な活動が見られることと、それ以外の地域でも、公文書館が置かれている県では、公文書館が主催して市町村向けの講習会を開いているところが多いという点である。

これら地域での活動は、結果的にはあるが、全史料協の意志　全国の市町村にアーカイブズについての考えを広めようとしたり、情報を伝えようとしたりする意志　を、各地で支えているとは考えられないだろうか（全史料協の側から見れば、全史料協はこれらの地域での活動を間接的に支援してきたとも言える。地域史料協では活動に当たって、全史料協の活動やそこで得られる情報に学ぶところが多かった筈である）。

もうひとつ、外部状況として重要なのは、先述したが、やはり東日本大震災であろう。広域災害時における記録資料の保全という課題は、マスコミ報道などを見ても、災害に関わる問題領域として認知度は高まっている。もちろん、全史料協の会員には、（狭義の公文書に止まらない）地域の記録資料をどう守るかという問題への関心は以前から継続していたが、震災を契機により切実に意識されるようになってきていると思われる。

組織・運営体制

この点については、前期（平成23～24年度）から今期（平成25～26年度）への移行時に、事務局選任に困難を伴ったこと、特に、大会・研修委員会の事務局を勤める機関会員が見つからなかったことが、やはり、重い課題として認識されていることは否定できない。

以前のような、ローテーションで機関会員（都道府県）の間を回していく方法が不可能になったことは、大方の

認識であろう。

この状況の中で、会を存続させるための簡便で直截な結論は、至って単純だが「やれるところで回していくしかない」というものである。機関の連絡協議会という性格を持つ以上、会の活動を行うにあたって機関会員が事務局を勤める形を捨ててしまうことはできないと思うからである。ただ、そう言うためにも、組織や運営方法についての（負担軽減のための）工夫が求められる。アンケートの回答にも示されているように、事務の分散化あるいは集中化というアイディアは、そのひとつである。多分、どちらの考え方もそれなりの利点があることは確かだろうが、実際問題としては、会全体と各委員会を区別して考えたいところである。

会全体（役員会と委員会）については、業務全体の質と量を考えれば（会の目標と「身の丈にあった活動」という命題に照らしてみても）、現在の組織をこれ以上拡大したり、縮小したりすることは適切とは思われない。ただ、事務遂行上の工夫として、たとえば、予算の枠組みは現在と同じにしつつ、資金の管理（つまり会の“財布”）を一本化して外部に委託する方法は現実的に考えられる。

一方、委員会とその事務局については、業務の分担のあり方に工夫する余地が（というよりその必要が）あると思われる。委員会全体の仕事を考えた場合、事務局の担う部分が（委員会によっても異なるだろうが）相当大きいと考えられており、アンケートの中で委員会事務局を引き受けられると回答した機関会員が少なかったのも、このためである。いささか理想化して言えば、事務局が主導しなければ委員会が動かないというのではなく、委員たちが主導して委員会を運営し、事務局はその補助的な業務を行うというのが、あるべき委員会の姿と考えたい（理想とは言うものの、これは決して不可能ではないと思う）。このためには、委員会の業務を分析し、委員が分担すべきものと、事務局が受け持つ部分を丁寧に仕分けていくことが必要になる。

地域部会の問題

現在活動している関東・近畿両地域部会については、是々非々の意見があるが、二つ合わせて年間10回以上の研究会を開催しており、会全体の活動実績という面から見れば、大きなプラス要素となっていると思われる。ただ、一方で、関東・関西で機関会員がひとつずつ部会事務局に充てられることは、全史料協の体制づくり（率直に言えば、事務局担当能力というリソースの割り当て方）としては、課題と認識してよい。アンケートにあった、「現状では、委員会が5つあるようなもの」という回答は、この点を指摘したものであろう。有志が自主的に

作ったという両部会の発足経緯を考えれば、親会の側から部会組織に否定的な提案をすることは困難であるが、これまでのような活発な部会活動を全史料協全体の活動の中に(つまり親会の活動として)より明確に位置づけようとする考えは、十分に有り得る選択肢である。

一方、アンケート回答の中には、全史料協を地域で分割し、親会は全国の合議組織へと移行するというアイデアがあった。さすがに、今の組織を分割するのは、短期的な方策としては非現実的であろうが、全国大会などを除いて日常的な会活動の主体を地域部会へシフトしていくのは、ひとつの考えであると思われる。

いずれにしても、両地域部会とも、自主的に発足し、独自の会費財源や、それに支えられた独自の発信手段を持っている等の事情を踏まえれば、親会が行う事業を含めて再構成するには緻密な作業が必要になる。

活動内容

アンケート回答には、近年の会の諸活動についての評価を述べたものがいくつか見られた。

特に肯定的に評価されているのは、たとえば、調査・研究委員会が各地で行っているセミナーであり、これは全史料協を知らなかった人々に会の存在を知ってもらう機会ともなり得ているようである。上で述べたように、県単位の地域史料協や県立の公文書館等主催の研修会などが各地で見られるが、それらが手薄なところをセミナーの開催の候補地とすることは、特に意味があると思われる。ほかには、会のウェブサイトや調査・研究委員会ブログの充実を指摘する回答もあった。

提言的なものとしては、会からの情報発信にメール送信を求める意見があり、既存のウェブサイトと合わせて活用すべき手法のひとつだと思われる。また、会報について、会誌とウェブに比べて、発信媒体としての弱さを

指摘する意見もあった。ただ、他の意見には「目に見える形で、全史料協から情報が届くことが重要」というものがあり、おそらくこれは、紙(印刷)媒体の成果物が、今なお重要であることを示唆していると思われる。

大会(および研修会)については、アンケート回答を見る限り、期待は様々に混沌としているようにも思えるものの、「大会に300名前後が参加されるということは、大会内容そのものに問題はないと理解して良い」という指摘のとおり、これまでの大会は会員にとって参加する意味があるものと見なされてきたと考えてよいであろう(細かな見直しは、もちろん年々必要であるが)。

なお、アンケートには、2年程度の期間を定めて役員会が重点テーマを定め、それに基づいて調査研究活動や大会を企画してはどうか、という意見があり、また、事業計画策定にあたって会員の意見を(アンケート等の手法で)聞く機会を設けるというアイデアを示した回答もあり、一考に値すると思われる。

総じて、アンケート回答の中で、目を留めたのは、情報交換、ノウハウの共有、機関や実務者の交流などの言葉であり、これらは、会への期待、および、これまでの会が(ある程度は)果たしてきた役割が、どのように認識されているのかを示していると思われる。

最後に、いささか理想的なことを言わせていただくが、機関や個人が全史料協に会員として名を連ねるのは、会の活動から得られる受益もさることながら、わが国におけるアーカイブズ分野のレベルアップに寄与するという意味があることを呼びかけたいと思う(おそらく、全史料協発足時点では、このような意識が強かった筈である。事情が変わっているとはいえ、忘れられてほしくない考えである)。

【組織検討ワーキンググループメンバー】

座長 小松芳郎(松本市文書館)

(以下、50音順)

新井浩文(埼玉県立文書館)

伊藤 康(鳥取県立公文書館)

小高哲茂(群馬県立文書館)

富田健司(個人会員)

長沢 洋(広島県立文書館)

福島幸宏(個人会員)